

令和元年度

学校評価報告書

帝塚山幼稚園



学校法人帝塚山学園

令和元年度学校評価について

帝塚山幼稚園は、令和元年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、保護者を対象としたアンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山幼稚園
園長　塚本　真紀

令和元年度　学校評価

１．総括

学　校　名	帝塚山幼稚園
建学の精神	「社会に有為な人材を育成する」
園の重点目標（教育目標	「生きる力の基盤と学びの基礎の育成」 “一人ひとりの個性を大切にし、気品と礼節のある子ども、強健な身体と豊かな感性、自律的精神をもつ子どもを育成する。”
前年度の成果と課題	［成果］ 本園独自の四季の自然を主軸とした教育カリキュラムにより園児一人ひとりの個性を尊重し、豊かな感性と創造性、自己肯定感を育む教育を実践した。 ［課題］ 園児一人ひとりの個性を尊重し、主体的な学びを実践する教育を追求していく。園児が心と身体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培うことができるよう、今後も教員が学びを深め、子どもの内面理解に努める。

本年度の重点目標	具体的目標	総合評価
１．保育内容の充実と特色ある保育の実践	①　幼稚園教育活動（教育目標）の共有化 ②　自然教育の推進・質の向上 ③　道徳性の芽生えと豊かな情操を培う活動の推進 ④　強健な身体を養うための教育の実践 ⑤　子育て支援事業の充実強化	A 保育内容の充実と特色ある保育の実践に関しては、四季の自然を主題にした自然教育を継続的に実践し、充実させた。本園独自の教育課程による活動に対しては、毎月の園内研究会で教員の指導力向上や子どもの理解に向けて研鑽を積んできた。公開保育研究会で、自らの保育活動への批評、講評を得ることを３月に計画していたが、新型コロナウィルス感染拡大により中止した。今年度の教員一人ひとりの学びを次年度も継続し、保育の専門性を高めることに繋げたいと考える。 ３年目になる園児の心身の健やかな成長を目的とした食育活動を、併設の帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科の協力を得て、各家庭と連携しながら今年度も充実させることができた。今後も保護者の協力や理解を得ながら継続実施に努める。 また、周辺地域との連携でもある園外保育での、障がい者施設の方々との交流により、「心のバリアフリー」を学ぶ機会が持てたことも、子どもたちの道徳の芽生えを育むことに繋がった。 ２歳児教育については、募集定員を上回る志願者を得られた。しかし、幼稚園の園児募集に関しては、昨年度より志願者は増加したものの、募集定員の充足には至らなかった。今後も教育連携室の協力を得ながら総合学園としての教育連携をアピールポイントにして、広報活動を展開していく必要がある。 帝塚山小学校へ内部推薦進学制度が明確なこと、また小学校教員による園児への直接指導（English Timeやワクワクドキドキ講座）の充実によって、保護者は、帝塚山小学校の教育への理解が深まるとともに、子どもたちが円滑に小学校教育に移行できる安心感が得られたと思われる。 本年度期中に施行された幼児教育・保育の無償化により、今後さらに「保育の質の向上」が求められる中、帝塚山幼稚園らしさを大切にしながら、保護者の期待にも応えられるように努める。
２．教育連携の強化	①　小学校教育との円滑な接続強化 ②　各学校との積極的連携	
３．教員の意識改革・行動改革推進	①　研究・研修の推進・充実 ②　学校評価の実質化と教員評価の実施推進 ③　幼稚園リスクの対策強化 ④　財政健全化策の強化	
４．園児募集活動の強化	○　園児募集・広報活動の強化	

２．-①　自己評価（教育活動に関するもの）

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
教育目標	教育目標の明確化	建学の精神と幼稚園教育要領の精神を踏まえ､園の教育理念･教育方針にしたがい「生きる力を育み、豊かな心を育てる」という教育目標を設定、周知のうえ実行する。	A	A	４月の職員会議において、体験型保育による子ども達の学びの基礎作り、基礎体力作りに努めることを年間目標として設定し、確認したうえで、全教員が共通理解のもと、本園独自の「自然を主軸にした四季に応じた保育活動」を実践した。	できるだけ早期に年度の具体的な教育目標を設定し、共通理解を図り実践する。
	教育目標の周知	園の教育目標を保護者に各学期ごとに周知を図る。	A		園の教育目標を、全クラス保護者会、育友会総会や各学期末の保護者会で伝えるとともに、月ごとに掲げた目標を、園便りを通じて周知した。	今後も、「園便り」や「クラス便り」、「てづキッズ便り（園長室便り）」を通じて周知する。
指導計画の作成	指導計画の充実	教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成する。	A	A	進捗状況に応じて、修正を加えながら年間指導計画を確実に実行した。	今後も、園児の実態に即して修正ができるよう柔軟性のある指導計画を作成する。
	五感教育の推進	園外での直接体験や本物体験を含め五感教育に取り組む。（各学期複数回）	A		教育内容に即した年間延べ10回の園外保育を計画通り実施し、直接体験による五感教育の実践に取り組んだ。	今後も教育内容に即した本物体験を、意識して積極的に取り入れていく。
	自律を促す指導の推進	規則正しい生活習慣の定着と道徳心の養成に向けての指導を定期的に行う。（年10回実施）	A		年間を通じて、園児の実態に応じた指導を毎月１回、年12回行った。また、障がい者施設の方と園外保育を通して交流することで、「心のバリアフリー」についての学びを園児が得ることができた。	計画と修正を繰り返しながら、今後も子どもや園生活の実態に即した指導を行う。
研修	研究保育の実施	外部講師を招聘し、計画的に園内研究保育を行う。（年10回実施）	A	A	外部講師を招いた園内研究保育を年間11回実施した。	今後も研究保育を継続実施し、研究課題達成に向けて研鑽に努め、教員一人ひとりの教育力の向上を目指す。
	公開保育の実施	公開保育を実施し、外部者からの評価を教育の現場に活かす。（年1回実施）	C		３学期に、約110名の幼児教育従事者の参加のもと、外部講師を招いた公開保育研究会を計画したが、新型コロナウィルス感染拡大に鑑みて、中止した。	今後も公開保育を継続実施し、更なる園教育の充実と発展を図る。
	研修成果の共有	各学期に参加した外部研修の成果を内部研修などで発表し、教職員の共通理解を図る。（延べ18回参加）	A		各教員が参加した延べ20回以上の外部研修で得た知見を内部研修等で共有し、教員のスキルアップに努めた。	今後も教員全員が幅広い内容の研修機会をもてるように計画し、成果を共有できるようにする。
教員評価	教員評価の推進	教員の自己評価の実施と教員の園長による個別面談の実施。	A	A	教員の自己評価を前期、後期の２度実施し、結果を全教員間で共有し、個人や園の課題を再確認した。	今後も教員の自己評価を実施し、個人の課題等については園長、園長補佐との面談により明確にしていく。
教育連携・内部進学	小学校との連携推進・内部進学の充実	帝塚山小学校児童との交流を深め、幼小連携の体制作りに取組み、内部進学を推進する。（内部進学率80%）	A	B	小学校教員によるEnglish Timeを計画通り実施し、年長児と年中児は小学生との交流機会を計画通りもつことができたが、年少児についてはできなかった。保護者アンケートの結果や実際の保護者の声から帝塚山小学校教育への円滑な連携についての理解は進んでいると感じられるが、内部出願率は約73%だった。	帝塚山小学校との交流については内容を今後も検討し、年少組も交流機会を計画することで、保護者の小学校教育への理解を深めて頂き、内部進学を推進していく。
	大学との連携推進	帝塚山大学各学部・学科より有効な情報提供や指導・助言を受け、教育現場に活かすとともに、大学生と様々な交流活動を行う。（複数回実施）	A		大学客員教授による講演会や、帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科学生による園児と保護者に向けての食育活動の実施、運動会や育友会行事、預かり保育ボランティアを通じて、同学部こども学科の学生との交流活動も行い、積極的な教育連携に取り組んだ。	今後も園児やその家庭の実態にあわせて大学との教育連携に積極的に取り組み、園児、学生が共に学び合える機会を持てるようにする。
	各学校との情報共有	各学校の情報を共有することに努める。特に小学校とは教育内容を相互理解できるようそれぞれの園内（校内）研究会に参加する。（研究会への教員参加数）	C		幼稚園、小学校の園内（校内）研究会に相互参加し、意見交換をする計画が十分でなかったため、実施に至らなかった。	各学校の情報を積極的に得ると同時に、特に小学校には幼稚園児の成長段階への理解を深めてもらうため、幼稚園の園内研究会に小学校の教員に参加を要請し、実際の園教育について意見交換する必要がある。

評価は４段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

２．-②　自己評価（学校運営に関するもの）

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
組織運営	教育目標の共有	園長の指導のもと、教育目標の周知を毎学期ごとに行う。（年３回実施）	A	A	月１回以上の職員会議でその都度教育目	具体的に教育目標を運営に生かしていく方法について、さらに検討する必要がある。
	組織体制の整備	園務を教務部、入試広報部、環境部に分掌し、適切な運営とその責任体制を整備する。	A		園の実態に即した園務組織に整備して運営を行い、年２回の中間報告を実施し、全教員間で内容を共有した。	役割と分掌についてより園の実態に即した整備について検討する。
安全管理	学校安全計画の立案・実行	安全管理体制の構築のため学校安全計画を立て、実行する。（複数回実施）	A	A	令和元年度学校安全計画に沿い、２歳児教育園児も含めて避難訓練を合計５回実施した。また、学園前キャンパスの一斉避難訓練も実施した。	これからも幼稚園、２歳児教育、全園児の実態に応じて内容や実施回数を増やすことも検討。
	危機管理マニュアルの整備	日常の安全点検・月1回の園内安全点検を充実させ、危機管理マニュアルの周知を行う。（年10回実施）	A		環境部により月１回、年12回の安全点検	今後も定期的な施設設備安全点検を行い、適切な処置を行う。
保健管理	保健機関との連携	地域保健・医療機関との連絡体制を整え、各学期1回程度の指導を受ける。（複数回実施）	A	A	各学期１回、年３回、地域保健・医療機関との連携を図りながら、保健管理を行った。	組織的な連絡・協力体制を構築する。
	学校保健計画の立案・実行	学校保健計画を作成し、確実に実施する。	A		令和元年度学校保健計画通りに実施することができた。新型コロナウィルス感染拡大に伴い、その実情に合わせて園児への保健指導はよりきめ細やかに実施した。	これからも幼稚園、園児の実態に応じて内容を見直し、柔軟に実施していく。
	保健管理の充実	園児の健康管理や怪我等に速やかに対応するとともにアレルギーについてのマニュアルに沿い実施する。	A		全職員を対象にエピペンやＡＥＤ等の取扱講習を行い、健康管理の意識を高めた。	今後も継続実施する。
情報管理	個人情報の管理徹底	個人情報の保護、管理を周知徹底する。	A	A	園児の個人情報を適切に保護・管理した。また、職員間でも詳細な確認作業を行った。	今後もパソコンによる業務を慎重に行うなど、個人情報管理について教職員の意識向上に努める。
	適正な情報の保管	公文書を安全に管理、保管する。	A		職員会議等で、園内外の情報を共有するとともに、情報管理の徹底を図った。	今後も徹底した管理と保管について励行が必要である。
保護者との連携	育友会との連携	育友会と互いに協力し合うとともに、連携を緊密にし、育友会主催行事を実施する。（複数回実施）	A	A	帝塚山小学校との幼小合同花火大会及び幼小合同バザーの２件の育友会行事を実施し、保護者との連携を深めた。	今後も密に連携していく必要がある。
	保護者ニーズの把握	保護者アンケートを実施し、保護者のニーズの把握に努め､要望や苦情に適切な対応を図る。	A		学期末の個人面談で受けた保護者からの要望等について担任と園長補佐が中心となり改善を図り、内容によっては全教職員間で共有した。又、年度末に保護者アンケートを実施した。	保育内容について高い満足度は維持できたので、今後も保護者に向けて丁寧で柔軟な対応を行う。
情報提供	教育情報の発信	園便り等で幼稚園の情報や教育内容を、毎月１回発信する。（年10回発信）	A	A	毎月１回、年12回の「園便り」に加え、各学期ごとの「てづキッズ便り」を通して詳細な情報発信に努めた。	今後も「園便り」と「てづキッズ便り(園長室だより)」の発行を継続実施する。
	きめ細かな情報提供	「クラス便り」を発信して、情報を共有する。（週２回発信）	A		担任からのお知らせやお願いを「クラス便り」に盛り込んで年間50回以上発信した。	今後も「クラス便り」の発行を継続実施し、きめ細やかな情報発信に努める。
	ホームページの活用	幼稚園教育や活動など、ホームページの更新に努める。（週１回以上更新）	A		２歳児教育、幼稚園とも保育日は、ホームページのニュース＆トピックスをほぼ毎日更新し、園生活をより分かりやすく発信した。	園の日常の保育活動についての情報を今後も効果的に発信するように努める。
子育て支援	子育て支援の充実	子育て支援講座の年1回の定期的実施や保護者の子育てに関する相談窓口を設ける。	A	A	小学校との合同子育て支援講座を実施し、好評を得た。また、子育てに関する相談窓口を明確にし、きめ細やかに対応した。	今後も保護者のニーズに応えるべく、子育て支援講座を継続実施する。

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
預かり保育	預かり保育の充実	園児、保護者の実態を見ながら、通常保育期間に加え、長期休業中についても年間20日以上、預かり保育を行う。（実施日数）	A	A	預かり保育は、帝塚山大学現代生活学部こども学科の学生ボランティアの協力も得て、園児の安全を最優先にして保護者のニーズに応えるべく、長期休業中の預かり保育も含め実施した。また、幼児教育・保育の無償化に伴い保護者が預かり保育の申し込みを気軽にできるよう、ナビシステムを導入した。	今後もこども学科の学生ボランティアの協力も得ながら預かり保育を継続実施する。
園児募集・広報	広報活動の強化	体験保育や発表会等の広報を、子どもや保護者に効果的な案内を行い、幼稚園に対する親密感を感じていただく。（参加者数延べ90人以上）	A	B	保育参観や園児発表、年長児と触れ合う体験保育を実施し、親密感を持ってもらった。参加者は昨年度より約40%増加した。	今後も体験保育の内容と時期について吟味していく。教育連携室の協力を得ながら、更に効果的な広報活動の内容を検討する。
	外部入試説明会への積極参加	外部の入園説明会に参加する。（３～５回以上の参加）	B		合計3回の外部説明会に参加し、出願につなげる努力を行った。昨年度より多くの志願者はあったものの募集定員を充足させることはできなかった。	幼児教室等との連携も交えて積極的に情報を得られるように働きかけていく。
	個別見学への対応	各募集行事についての情報を適時に更新するとともに、園案内の送付も継続的に行う。また、年間通じて個別の園見学を実施する。（参加者数延べ80人以上）	A		ホームページを通じて幼稚園を知った個別の見学者に対し、きめ細やかな園案内や教育内容の説明を行った。新入園児以外に途中編入者もあった。２歳児教育については募集人数より上回る志願者があった。	今後も個別の対応を丁寧に実施し、募集人員の充足につなげていくように努める。
学校評価	学校評価の推進	学校評価を実施し、その結果により教育活動、学校運営の改善工夫に継続的に取り組む。（総合評価「A」確保）	A	A	平成30年度学校関係者評価を実施し、総合評価「A」を確保するとともに、その結果を可能な限り数値化し、令和元年度園運営や教育内容の見直しに役立てた。	学校関係者評価を適切な時期に継続実施し、その結果をもとにして、今後益々園運営や教育内容の改善に努める。
学校運営	予算執行の適正化	経費のうち、特に印刷費の節約を図る。（印刷費10%節減）	A	A	策定された「財政健全化計画（小学校・幼稚園編）」について全教職員が理解し、特に事務費の削減に努めた。	今後も教職員一同協力して、物件費節約に努める。

評価は４段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

３．学校関係者評価

意　　見	改　善　方　策
① 地域の障害者施設との連携は、幼児期から様々なハンディキャップを知り、関わり、その中で理解を深め、子ども達の感性や道徳性の深まりに繋がる良い教育的機会である。	①今後も、地域の障害者施設との交流を持ち、教育的意味のあるものとして、積極的に取り組みたい。
② 四季の自然を主題にした自然教育を継続的に実践し、自然の変化を敏感に捉えることは一番大きな学びへの動機付けだと考えられる。その為には教師の適格な言葉がけが必要となる。保育の質の向上は、教員の研鑽の積み重ねである。子ども達に「主体性」を求めると同様に教員にも「主体性」が必要であるので、できるだけ多くの視点から保育者の専門性を高めていく為に、今後は園内研究会に帝塚山大学の教員が参加してはどうか？	②外部講師を招いて年11回の実践的な園内研究会を行い、大学の講師やベテラン教員が的確に指導し、教員の資質向上に繋げてきたが、今後はより視野を広げていけるように、園内研究会に帝塚山大学教員の指導を求めることも検討していきたい。
③ 教育目標をしっかり保護者に伝え、理解してもらうために、園便りやクラス便りを頻繁に発行して保護者に広報されていることは、大変評価できる。	③今後も家庭との連携を密にし、教育目標を伝え、理解に繋げていけるようにしていきたい。
④ 小学校との頻繁な交流があり、園児が希望をもって帝塚山小学校入学を望むことは素晴らしい。また、大学の食物栄養学科との「食育」に関する連携をしっかり継続していることや教育学部として新しく出発したこども教育学科との連携も継続していることも評価できる。2020年度の始まりは予想外なものだが、より強く連携していける基盤ができていることに期待する。教員間の相互理解から連携はスタートすると考えられるので、より一層の連携の機会を増やす試みを期待する。	④小学校、大学現代生活学部食物栄養学科、大学教育学部こども教育学科とも教員間の相互理解をより深め、学園内の教育連携を強化していきたい。
⑤ 園児募集に関して、幼児教室での広報活動は帝塚山幼稚園の教育目標と少し離れているように感じる。特長ある幼稚園の教育は目に見えないものであるので、今後どのようにアピールするかが課題である。園舎の部分改築がなされ、環境整備面では健闘しているので、前向きなよりよい保育の展開を期待する。	⑤幼稚園の特長ある教育は目には見えにくいものであるので、今後は幼児教室での広報活動の在り方も検討していきたい。教育連携室の協力も得て活発な広報活動を行い、募集定員を充足していきたい。
⑥ 幼稚園教員の入れ替わりが多く感じられる。個人や組織上のこともあると思うが、幼稚園の教育方針を達成するためには、定着率を上げていくことが運営上の課題ではないか。	⑥女性の多い職場のため、どうしても婚姻や出産の機会に退職することが多くなる。今後、この問題についてより勤続しやすい環境作りを検討したい。